

●本校の実態を踏まえた学力等に関わる成果と課題

成果	課題
個の学習状況に応じた指導や授業展開の工夫を行ったり、業間体育を行ったりすることで、児童の体力向上へと繋がった。また、その工夫により、児童の意欲の向上や「分かる楽しい」授業を児童に味わわせることができた。	「1つの運動しか取り組まない」といった、運動の内容に偏りのある児童が多い。運動の日常化(放課後遊び)がまだできていない。授業における、教師のポイントをおさえた言葉かけの実行が不十分であった。

●本校の実態を踏まえた学年ごとの課題及び改善策

学年	児童の実態及び指導上の課題	具体的な授業改善策
1年生	体を動かすことを好んで行う児童が多い。しかし、全体的に持久力、握力、投力、調整力等に課題が見られる。	固定遊具を使って、逆さ姿勢や上り下りなどの様々な動き遊びを取り入れる。ボールや縄跳びを使って、用具を操作する動きを身につけさせる。
2年生	体を動かすことが好きで、基本的な運動技能はあるが、ルールを守ったり、よりよいやり方を工夫したり、協調して活動する力が弱い。	ルールを視覚化して分かりやすく周知させたり、作戦タイムを設けて話し合いをさせたり、自分の運動の目標を立てさせて達成できたらみんなの前で評価する。
3年生	体を動かすことは好きでも、体育科の運動には苦手意識のある児童がいる。安全面の配慮に欠けた行動をしてしまう児童もいる。	体づくり運動において運動の楽しさを十分に味わわせ、活動に取り組ませる。授業において、楽しむ為にも安全面は気をつけなければならないことを毎時間徹底していく。
4年生	運動が好きな児童と苦手な児童で二極化している傾向にある。しかし、自分たちでよりよい方法を工夫したり、取捨・選択したりする力はついてきている。	技能の習得の仕方を可視化したり、考えさせたりすることで、運動が苦手な児童にとっても分かりやすく学習できるようにする。
5年生	運動することが好きな児童が多い反面、運動能力は二極化の傾向がみられ、工夫して運動に取り組むことは苦手である。	運動特性を十分に理解させ、達成感を味わわせるとともに、グループ活動の時間を確保して、運動のポイントを発見させたり、作戦を考えてゲームを楽しんだりさせるように指導する。
6年生	得意な運動と苦手な運動の二極化している。そのため苦手な運動では、動きが消極的になり、運動量が減少している。	運動の得意苦手の差が出ないようなルールを設定し、競い合ったり、差が気にならないような場をすることで、どの児童も意欲的に取り組めるようにする。

●学校全体で取り組む内容

授業内容や実技、言葉かけなどの教員研修を定期的に行い、教師の専門性の向上や指導方法に関わる共通理解を図る。また、副読本、掲示物、学習カード、ICTなどを活用して、積極的な運動の「見える化」に取り組む。
--